

1. 特集 トウホクマイクロクレジットは今

◆「トウホクマイクロクレジットは今」

トウホクマイクロクレジット事業は、被さい者への支援の行き届きをサポートし、生活・事業再建の実現をはかるものとして東日本大震災後に開始された。これまでの主な活動として、釜石市、陸前高田市、大槌町などの地域で、内閣府から発行されている「生活再建・事業再建ハンドブック」と「簡易版ガイドブック*」それに「仮設住宅くらしの手引き」等のお届け、生活や雇用に関するアンケートの実施、弁護士や医師、中小企業診断士などの専門家を招いた相談会を実施してきた。そして仮設住宅を一軒一軒回りハンドブック等を合わせて 8,500 部を手渡しする一方で、被さい者の些細な心配事や悩み事を聞き取る地道なアンケート活動(9 月 15 日現在 400 件)を継続している。7 月からは、現地協力団体等の炊き出しと一緒に、定期的に相談会を実施し、多くの被さい者に足を運んでいただき、大変な盛り上がりを見せた。今後も、時々刻々と変化する現地ニーズを正確に把握し、みな様の生活・事業再建に向けて継続的に活動を実施していく予定である。*簡易版ガイドブックは日本リザルツ作成。別紙に写真掲載。

◆変える力。 変わる世界。(現地スタッフ「ともちゃん」こと村上智美さんの日記から抜粋)

8 月 20 日 きょうは釜石市、唐丹町小白浜にある仮設住宅でイベントをしました。ここは、70歳以上の方が多い住まいです。昼時の美味しい炊き出しは前回に引き続き、大好評。笑顔で食べてくださる方がたくさんいてうれしかったです。触れ合いや対話を通して心も体も少しずつほぐれていく様子がとてもうれしかったです。整体士さんによるマッサージや、足湯、医師、看護師さんによる健康の相談、血圧の測定では、順番待ちの方がいらっやるほど大好評。



*栄養満点のどんぶり飯



*東京都小金井市の丸茂眼科様から提供された老眼鏡も大人気



*東京から駆け付けた幸道先生と仮設住宅の相談者

なんでも悩み相談では、お家の中にいらっやる方にも1人1人声をかけて、会場まで一緒に話を楽しみながら歩くことを大切にしました。1人のおいちゃんが、度数のぴったり合う眼鏡を見つけて「これでよく見えるようになった!」「来てよかった」と、言ってくれた時、なんだか涙がでました。ぼやけた世界が、少しでもはっきり明るく見えるように。変えられるものを変える勇気とそのための一つ一つの丁寧な出会いの縁を大切に。今後も、思い・声に寄り添いながら変わることを信じて、仮設住宅等をまわって正しい情報のお届けと、希望が見えるきっかけづくりの支援を努力していきたいと思ひます。

◆生活支援ハンドブック等に関する質問主意書に政府答弁

浜田昌良参議院議員(公明党)が提出していた「東日本大震災の被さい者を対象とした生活支援ハンドブック等に関する質問主意書」に対し 8 月 30 日付で政府答弁書が送付された。浜田議員は、日本リザルツが現場からくみ上げた声をうけ、政府が発行している手引書の内容や配布方法が被さい者に寄り添う姿勢に欠けているとして仮設住宅等での説明会の開催などの周知徹底への取り組みが必要だと訴えた。答弁書ではハンドブックはみな様に届くようにしているとしているが、今後とも被さい地の声を踏まえて更なる改善を図ってまいりたいと答えた。

[テキストを入力]

[テキストを入力]

[テキストを入力]

◆遠野ジェラートプロジェクト

この7月より岩手県遠野市の多田自然農場のジェラートを介して、被さい地や貧困に直面する国々に暮らす人々とのつながりを持つ場をつくる「遠野ジェラートプロジェクト」が始動。3月11日の震災以降、経済、効率優先の暮らし方の脆さに直面し、つながることで、助け、助けられることを実感している人も多いのではないだろうか。本プロジェクトの目的は、同じく被さいしたハイチのマンゴやラム酒を使った東北のジェラートを愉しみながら、それぞれの地が抱える状況を知り、共有し、どのように行動できるかをより多くの方々に考えてもらうことである。一人でも多くの方が東北の課題に取り組むことが、大きな社会問題を解決する鍵である。おいしいジェラートから広がるストーリーを通して、貧困問題を解決するアクションを起こそう！現在、本プロジェクトに参加するカフェ、レストラン、企業を募集中！

多田自然農場 <http://www.lascaux21.com/tadanojo/> 担当 川添 優 yukk.results@gmail.com

2. 活動報告

HAITI

2010年1月12日、ハイチ共和国の首都ポルトープランスをマグニチュード7.0の大地震が襲った。ハイチは今。…私たちはハイチを忘れない。

◆ハイチプロジェクト(LAMP法の実施)を前に、国際結核研修

前号レターで紹介した外務省ハイチ調査(2月中旬)を踏まえて、6月2日・3日に開催した第86回日本結核病学会総会にストップ結核パートナーシップ日本の角泰人先生がハイチ特別講演を行った。調査報告書は当総会、また4月19日、外務省で開催されたストップ結核アクションプランフォローアップ会合で配布され、7月には英訳も完成した。

尚、秋からハイチへ派遣される日本リザルツの石塚が、出発前準備の一環として5月上旬から7月末までJICAと結核予防会結核研究所が主催している「ストップ結核アクション研修」を受け、結核対策に関する知識と国境を越えた交友を深める機会を得た。この研修は1963年から48年の歴史のあるコースであり、これまでおよそ2100人の研修生を受け入れてきた。今年はアジアとアフリカ7か国から10名の医師、また石塚を含む国内研修生2名が参加した。

また、ジャパン・プラットフォームの助成金を通して、栄研化学株式会社が開発した結核の新診断技術 LAMP 法 (Loop-Mediated Isothermal Amplification; DNA抽出キットを使用する簡易・迅速な結核菌群検出法) 普及のパイロットプロジェクトを今秋にハイチで実施することになった。LAMP 法は、従来の喀痰検査と比べ、結核の診断方法がとても簡単になり、また安全で正確に結核菌の感染を診断できる方法であり、ハイチなど検査技師が不足している結核蔓延地域には適していると考えられる。本プロジェクトを実施する際に、ハイチのマザーテレサとして知られる須藤シスターが活動されているシグノー結核療養所も普及活動(検査技術の研修)の一つの拠点とする予定である。



*長野への視察旅行。善光寺前で研修生と



*世界保健機関ラビリョーネ結核部長の公演を聴く研修生



*修了式にて、石川信克所長とアフガニスタンからの研修生と

◆国際連帯税フォーラム設立総会 および記念シンポジウムの開催

2011年6月25日(土)12時半から標記総会、13時半から16時半まで記念シンポジウムが青山学院大学で参加者70名を集めて開催された。2009年に創設された国際連帯税推進市民の会(ACIST)の後継団体として、労働組合などの団体会員を中心とする国際連帯税フォーラムの設立が承認された。正会員団体として日本リザルツを含めて10団体、理事として日本リザルツ白須事務局長を含め10名が、また団体の代表理事3名のひとりとして白須が満場一致で承認された。活動方針は、連帯税実現のためのロビー活動、シンポジウムなどの開催、マスコミを通じての世論形成、各国 NGO との連携とリーディンググループ総会への参加、新たに設置された専門家グループ(日本リザル

ツ佐藤吉寿委員)との連携であった。シンポジウムでは、横浜市立大学の上村雄彦准教授、金子文夫教授、青山学院大学の三木義一教授の講演がありその後活発な意見交換があった。

◆リーディンググループ総会に参加

「開発のための革新的資金調達に関するリーディンググループ」の第9回総会が、6月24日・25日にマリの首都バマコにある国際会議場で開催された。前回東京で開かれた総会から半年ぶりとなる今回の総会にはアフリカ諸国を中心に63か国のほか、国連やアフリカ開発銀行など18の国際機関それに30のNGOの代表が参加した。会議ではアフリカ諸国の多くの代表が「新しい形で調達できる資金はあらかじめ目的を絞り、地域の持続的発展に直結する方法で使われるべきだ」といった考え方を強調した。一方でノルウェーの代表は「金融取引に課税するなど民間資金の活用はもっと議論されてよい。その際は透明性をはっきりさせて支援にまわすことが重要だ」といった意見が出された。ベルギーなどからも「革新的な方法で資金調達を導入する際は法律的裏付けをはっきりさせた上で支援事業に活用すべきだ」といった提言があった。一方、リザルツの海老原からは「東京での総会に合わせる形で日本国内でも国際連帯税導入に向けた機運が高まったが、東日本大震災の影響で議論を中断せざるを得なかった。今夏以降、国際連帯税フォーラムの設立などで市民向けの啓発活動が再開されるので、今後の推移を見守ってほしい」として参加者に日本の現状への理解を訴えた。次回12月の総会はスペインで開催される予定。



*トウレ大統領が開会を宣言



*各テーマごとに討議

◆国際連帯税創設を求める議員連盟総会開催

国際連帯税フォーラムが設立され、その後理事会が3回開催された。これを受けフォーラムと議連事務局では、8月8日の総会開催を決定した。当日は、一般市民含め70人以上が参加した。総会の中で峰崎直樹内閣官房参与(元財務副大臣)は「昨年は航空券税が実現できなくて残念。連帯税に先立つ国際人道税は東大名誉教授の金子宏先生が生みの親。日本国憲法の趣旨にもかなう。税調の中里実教授はじめ財務省にも多くの教え子がいる。昨年の轍を踏まないためにも外務省には本腰をいれてほしい」と訴えた。又、林芳正会長は「実現要求は外務だけでなく、受ける側の財務、国交と要望書の中身を少し変えながらやる。ボランティア貢献を称揚する仕組みも必要である」と強調した。さらに、齋藤つよし議連幹事長は「昨年は『連帯税』を明記させるのに成功した。今年は議連として予算編成に盛り込ませることをNGOなどと協力しながらやりたい。外務大臣あてにすぐに要請書を提出したい。決まったら連絡するので要請行動にできるだけ参加してほしい。外務、財務、国交、各党税調責任者、国際的な場所で発言できる人へも要請を行っていききたい」と述べ拍手後、散会した。

◆国連エイズハイレベル会合参加

世界から大統領・首相・保健大臣や国際機関のトップが集り、第3回(2001年、2006年に次いで)の標記会合が6月8～10日にニューヨークの国連本部会議場で行われた。日本リザルツの狩野は、日本政府代表団(外務副大臣・外務省・厚生労働省・NGO等)の一員として参加して情報収集を行い、また関係者と意見交換を行った。バンキムン国連事務総長は、エイズが発見されてから30年経ち、その対策は進んだがまだまだ課題が多いとして、全ての人々がエイズ予防・治療にアクセスできるようになること、メーカーとの交渉による治療薬の価格の引き下げ、世界基金の拡充、新グローバルエイズ計画(2015年までに子供のエイズをなくす)の実施、保健システム強化、革新的資金調達方法導入などの項目が、エイズのない世界を実現するために大切であることを改めて強調した。世界で猛威を振るう、これら感染症に対して日本国内でもあまりにも意識が低いのが気になる場所である。



*国連本部会議場

[テキストを入力]

[テキストを入力]

[テキストを入力]

◆GAVI アライアンス ロンドンで会議



*キャメロン首相、ビル・ゲイツ氏など出席

6月13日、ロンドンにてGAVIアライアンス増資会合が開かれた。白須事務局長が招待を受け、ロンドン在住のボランティア角田直毅さんと共に参加。日本は、GAVIアライアンスに対して、初めて9.3百万ドル(約7億5千万円)を拠出することだけでなく、翌年以降も相応の拠出を行う用意があると表明。そして、拠出額全体の合計は当初目標の37億ドル(約2,970億円)を大幅に上回る41億ドル(約3,280億円)に達した。白須事務局長はリザルツUKのスタッフとも久しぶりの再会。とりあえず拠出会合の無事終了の喜びと資金が有効に使われ、救うことのできる多くの命が守られることを心から願い、「これからがスタートよ！」と気合を入れて帰国。

◆GAVI アライアンス事務局が来日 日本からの貢献考える

途上国を中心に予防接種プログラムの拡大とワクチンの利用促進に取り組んでいるGAVI(The Global Alliance for Vaccines and Immunization)アライアンスについて学ぶセミナーが8月23日港区のJICA・地球ひろばで開かれた。会場にはNGOの代表20人あまりが集まり、GAVIアライアンス事務局で日本を担当する北島知佳氏(きたじま・ちか)が、世界中の予防接種を受けていない子どもの85%が生活する途上国で、GAVIは設立後の10年間でB型肝炎やはしかそれにヘモフィラス・インフルエンザ菌b型や黄熱病などのワクチン接種の結果、500万人以上の命を救ってきたことや、今後は子宮頸がんを引き起こすとされるヒトパピロウイルス(HPV)や日本脳炎などに対する新規ワクチンの供給を強化することなどを紹介。続いてGAVI事務局のブライアン・ティスダル氏(Brian Tisdall)は日本においてもNGOの知恵と力を結集させて目標達成の必要性を政府や国民に働きかけて欲しいと訴えた。



*8月23日のセミナー

◆リザルツ 女性国会議員を対象にGAVIアライアンスの勉強会開催

一方、8月25日にはGAVIアライアンスと日本の貢献の可能性について国会議員の方々から意見を伺う勉強会が開かれた。この勉強会は日本リザルツが特に子どもと女性の健康に関心のある女性の国会議員を対象に、GAVIアライアンス本部から来日中のふたりの上級資金調達官を招いて開いたもの。

当日は衆議院議員会館の会議室には石毛鏡子議員(いしげ・えいこ)や西村智奈美議員(にしむら・ちなみ)の呼びかけに応じた各党所属の議員、議員秘書や外務省の幹部が集まった。席上、GAVI事務局のブライアン・ティスダル氏(Brian Tisdall)は、「日本には世界でも最も成功した皆保険制度が維持されている。WHOやUNICEFに加え、新しい資金管理のもと官民一体となって、途上国でワクチン接種の普及に取り組んでいるGAVIアライアンスの活動にも、日本の保険制度の知恵と経験をいかして欲しい」と呼びかけた。また外務省の松浦博司地球規模課題総括課長(まつうら・ひろし)は、「日本としては今年初めてGAVIアライアンスに対し資金拠出することを決めたが、そもそも日本としては沖縄や洞爺湖で開かれたG8サミットの場でワクチンを含む主導的な役割を担うドナーとして貢献すると表明している以上、今後も国際保健の分野でも一定の役割と貢献を維持することが重要だ」と訴えた。

一方で出席した議員や秘書の方々からは、「日本ではワクチン接種を不安に思う人たちが相当数いるので、ワクチン接種の評価についてももう少し科学的な説明が欲しい」といった意見や「製薬会社に対して薬価を下げる仕組みについて具体的な情報が欲しい」といった要望が相次いだ。日本リザルツとしては今後もGAVIアライアンスと共同でこうした勉強会を重ねワクチン接種に対する理解を深め、日本として相応の資金拠出(年間50億円)を求めていくことにしている。



*女性議員対象の勉強会



*資金調達官とリザルツスタッフ

◆世界基金を含むODA削減に反対

3月の震災以降、第一次補正予算案で当初1,000億円のODA削減が提案されたが、日本リザルツをはじめ、JANIC、「動く→動かす」などの反対活動もあって、削減幅を半分にすることができた。

続いて、5月2日にストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会が開催された。一次補正予算案における501億円のODA削減に伴い、世界基金への拠出も159億円が全額見送りとなったことに対し、議連としての対応を決議。一時的に復興財源のために削減された予算について、今後の補正予算編成の機会等を活用して世界基金を含むODAへの拠出を復活するよう求める内容である。リザルツからは、4月に、JANIC、「動く→動かす」、リザルツの声明文を持って全国会議員へ回ったいきさつを含め、国際NGOとしてもODA削減には強く反対する旨を発言した。

決議後、議連として総理官邸へ申し入れを行った。白須事務局長も同行。枝野官房長官が対応、世界基金の重要性の認識のもと、今後の補正予算編成に向けて前向きに検討するとの返事であった。

日本リザルツからのお知らせ

来る10月24日は「世界・ポリオデー」です。リザルツでは、ポリオ根絶やワクチン接種の普及を含む幅広い国際保健分野での日本の取り組みを多くの方に知ってもらうため、外務省や日本グローバルヘルス協会などの呼びかけに協力して、「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」と共催で都内で公開イベントを行います。当日は、患者の方を交えて最新のポリオ根絶にかかる取り組みについての紹介のほか、パネルディスカッション方式で誰にでもできるワクチン普及活動の発表などを予定しています。詳しくは日本リザルツ・ホームページにてお知らせいたします。

3. ボランティアの方々の近況 バスーラ・ハートリンク・プロジェクトと高橋真知子さんから

◆田無発、フィリピンの貧しい子どもたちを救え！

8月1日、「バスーラ・ハートリンク・プロジェクト(以下「B.H.P.」)メンバーが、日本リザルツ事務局を訪れた。西東京市でイタリア料理店「トラットリア・エン」を経営する涌井康年(わくい・やすとし)オーナー、同市を活動基盤に、人と人・場所とをつなぐことで地域産業振興を目指す企画・PR活動を行っている「田無ソーシャルメディア研究会」原田光久(はらだ・みつひさ)代表及び鈴木剛(すずき・つよし)副代表との意見交換は大変有意義であった。涌井オーナーからはフィリピンの首都・マニラ北部にあるスモークマウンテン近くのゴミ捨て場やその周辺に暮らす子ども達の生活支援のため、今年5月から7月までに集められた寄付金を白須事務局長に手渡された。涌井オーナーは、「『B.H.P.』の取り組みをきっかけに、もっと多くの市民の人たちが最低限の生活環境も整わない海外の子ども達のために関心を高めてもらえれば嬉しい」と話された。

『B.H.P.』は、2011年5月から「トラットリア・エン」で販売する焼き菓子の売上50%を現地で暮らす子ども達のために寄付する地域連携社会貢献プロジェクトである。



*リザルツスタッフと一緒に

◆福島の子もたちに楽しい夏休みを！～川崎サマースクールを終えて（7月31日～8月12日）

誰もが目を覆い手足を震わせ、あまりにもおごい自然の猛威におののいたあの日。「子どもは元気」「自然大好き」「外遊び大好き」そんな当たり前の姿が福島からは消え、子どもたちは今、どうしているのでしょうか？ 硬い表情で、盛夏というのに長袖、長ズボン、マスク姿で迎えるバスに乗り込んできた子どもたちですが、帰るときには日焼けした笑顔で、「プールで泳げて楽しかったよ」「どろんこになって、思い切り遊んだのが楽しかったよ」「こどもの国で食べたソフトクリームがおいしかったよ」「ふくしまにもどりたくない気分だよ」などと感想を持ち、最後には涙を見せながら、ひと夏の別れをしていきました。私たちボランティアも、「やってよかったね」「どの子も変わりなくかわいいね」「元気でがんばれなんて、簡単



*どろんこ遊び大好き！

[テキストを入力]

[テキストを入力]

[テキストを入力]

には言えないよね」と、去っていく子どもたちの姿を追いながら複雑な思いにかられました。

第1期は、福島市や白河市から7泊8日、市の施設を利用し寝食を共にしながら、5歳から6年生まで30人の子どもたちが参加、第2期は4泊5日、伊達市からの親子20組が同様に参加してのサマースクールでした。延べ130名ものボランティア(学生含む)と、全国から500件を超える個人、団体の寄付などを支えに実現した大プロジェクトです。この大震災に誰もが心を痛み、何かできることをしたいという大応援団が後押ししてくれたのです。「福島の子どもたちとともに」川崎市民の会副代表 高橋真知子(骨髓バンクボランティア、事務局長友人)



*友達いっぱいできたかな？

4. 遠野事務所 スタッフ紹介 とも&てつ と 佐久間さん



*中根保政会長から提供された復興Tシャツを着たとも(村上智美さん)&てつ(日置哲二郎さん)



*ドライバーの佐久間要さん

日本リザルツ

遠野事務所

〒028-0500
岩手県遠野市遠野町
30-26-17
Tel: (080)-4407-5436

*日本リザルツの変えるちゃん



遠野に事務所兼住居施設があります。ボランティアの方々、大歓迎です。上記連絡先へ！

5. イベント／国際会議情報 ～ぜひご参加ください！ボランティアさん募集

<イベント>

- 9月9日(金) 12:00～13:00 ハイチ・つなみ募金
水道橋駅東口前
- ※10月11日(火)、11月11日(金)、12月9日(金)も行います。
- 10月1日(土)～17日(月) スタンドアップ全国展開
議員会館、他各所 (主催: 動く→動かす)
- 10月23日(日)～25日(火) 世界ポリオデー記念国際保健
のためのパートナーシップ事業(案)
都内各所(主催: 外務省、JICA、ユニセフ他)
- 10月29日(土) 国際連帯税フォーラムシンポジウム
青山学院大学

<国際会議 他>

- 9月19日～20日 国連ハイレベル会合(非感染症)
ニューヨーク
- 10月23日～26日 世界保健サミット、ベルリン
- 10月26日～30日 ユニオン総会(国際結核肺疾患予防連合:
IUATLD、フランス)
- 11月5日～13日 リザルツグループ戦略会議、ナイロビ
- 11月14日～17日 マイクロクレジットサミット、スペイン
- 11月21日～22日 世界基金 第24回理事会、ガーナ
- 12月(予定) 第10回 革新的資金調達メカニズム・リーディンググループ総会、スペイン

お世話になっています。○中根保株式会社 復興Tシャツ500枚 ○丹後まみこさん「命のアサガオ」の種50,000粒(7月～8月)
○丸茂眼科医院(小金井市) 老眼鏡100本 ○株式会社メガネトップ(眼鏡市場) 老眼鏡2,000本 ○TMP トータルマーケティングプリンティング 印刷費一部 ○多田克彦氏 各種野菜の提供 ○我妻法律事務所(仙台市) ○中小企業診断協会岩手県支部 宮健氏
○東北税理士会 岩手県支部連合会釜石支部 ○カリタスジャパンとボランティアスタッフ ○難民を助ける会 ○RINGRINGプロジェクト
○ジャパン・プラットフォーム ○JANIC ○リザルツボランティアスタッフ、監事・理事のみなさん他

日本リザルツでは、東日本大震災直後より現在に至るまで、被災された方々への支援のために、様々な局面においてボランティア活動を行ってまいりました。この支援活動の一環として、被災者の方々へのこれからの生活を守り、自立への足掛かりの一助として活用していただくことを願って、被災者支援プロジェクト「トウホクマイクロクレジット」(少額融資金融サービス)を微力ながら展開してまいりました。そこで、この「トウホクマイクロクレジット」を更に充実した支援活動にすべく、みな様からのご協力よろしくお願いたします。ご寄付いただける場合は、お手数とは存じますが、同封のお振込み用紙をご利用ください。



*中小企業診断士の宮さんによる丁寧な対応

リザルツは、政治家やメディアと協力し、貧困に苦しむ人々の声を政策に反映させ、「貧困と飢餓のない世界」を創ろうと活動している国際市民グループ(NGO)です。日本の他、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ、メキシコ、フランス等、各国で活動しています。日本リザルツは1989年の発足以来、ODA(政府開発援助)政策等において、貧困削減への費用対効果が高く、且つ顔の見える援助政策について政府に提言しています。リザルツのユニークな活動方法は、草の根の市民から、米国国務長官のヒラリー・クリントン氏、経済学者のジェフリー・サックス氏、元南アフリカ大統領のネルソン・マンデラ氏等世界の著名人達に至るまで、幅広い層の支持を得ています。マイクロクレジットでノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のムハマド・ユヌス氏は、日本リザルツの名誉顧問です。